

海軍ニュース：中国空母は、2つの造船所で分割建造か

漢和防務評論 20130923（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

前便で、中国国産空母建造関連のニュースを紹介しましたが、漢和防務評論 20130923 に新たな記事がありましたので紹介します。

漢和は、上海長興島の造船所ですでに建造が開始されたとの一部メディアの記事は誤りであると指摘しています。

漢和の記事によると、中国海軍と造船メーカーとの空母建造の契約は済んでいないとの見方です。

国産空母の建造をめぐる中国の2大造船会社の受注競争が激烈だそうで、結局、分割建造方式により、両社に仕事が行くように配慮がなされるようです。どちらが主契約社になるかで又競争になるようです。

KDR 上海 JOHN CHANG 特電：

中国国産空母は、建造メーカー間で受注競争が過熱している。中国造船工業界の権威筋は、**KDR** に対し「江南造船所（上海市長興島）のみが国産空母の分割模型を造る能力があるのではない。大連重工業も模型を建造する能力がある。中国海軍は、これらの模型をつぶさに見ている。模型を造る目的は、主として海軍指導者に製造技術を展示するためである」と述べた。

KDR がすでに報道したことだが、大連重工業をトップとする北方重工は「国産空母第一艘目の設計（知的財産権）は我が集団が完成させる。現在基本設計を終わった。この点が最も重要だ。“遼寧号”の改良も大連が行った」と述べた。

江南造船所は、實際上 071 型大型ドック型揚陸艦の改修型の建造を分担している。作業はすでに開始された。権威筋は「071 改修型は 071 原型に比べ相当大きく、排水量 550 トンの国産 ZUBR 大型エアクッション艇を 2 乃至 4 艘搭載できることが要求されている。しかし 071 原型は排水量 80 トンの中型エアクッション艇を 4 艘搭載できるのみである。したがって 071 改修型の排水量は 071 原型の 3 倍で、排水量は 30000 トンを超える」と述べた。中国は、中国版 ZUBR 型大型エアクッション艇を自力生産しようとしている。設計図は全てウクライナから入手した。

権威筋は、ごく最近次のように述べた「大連と江南造船所の国産空母の激的な受注競争に配慮し、2艘の国産空母の建造を両造船所に分割建造させ、その後江南、或いは大連で合体、艤装する案が現在検討されている。2013年6月現在、海軍は国産空母建造に関して何れの造船所とも契約書に署名してはいない。したがって一部のメディアが「上海江南造船所ですでに国産空母の分割建造を開始した」と報道しているが正しくない。

江南造船所が建造した分割模型から KDR が判断したことは次の通り。全体の大きさから見て、国産空母はおおむね4つに分割される可能性があること。これは中国海軍の造船能力がインドよりも高いことを示している。インドの排水量38000トンの初の国産空母は、最初に竜骨を置く従来型の一体型建造方式である。分割建造方式は、伝統的な竜骨設置の儀式を単なる象徴的な意味に変えてしまった。分割建造方式は建造期間を大幅に短縮した。分割建造の意味は、實際上モジュール化生産方式であり、将来の維持整備が容易になる。

分割生産方式を採用すると、発生する新たな問題は、江南及び大連造船所に仕事を平等に分割するのか？という問題である。或いはどちらか一方に偏るのか、即ちどちらか一方により多くの分割部分を製造させるのか？という問題である。

もし第一艘国産空母が江南造船所で最後の合体、偽装を行うのであれば、大連造船所が製造した分割部分は平底船で海上を江南造船所に運ばれる。逆もまた然り。

2つの造船所は、なぜ積極的に空母建造を求めるのか？主な理由は次の通り：第一、海軍艦船の建造は、20年前とは状況が異なっている。20年前の軍艦建造は、利潤が少なく、しかも海軍の代金支払いは常に滞った。現在、国際的に民用船の発注が大幅に減っている。軍艦建造の注文は、是非とも獲りたい注文であり、空母の注文は象徴的意味が極めて大きい。一旦最初に製造の機会が与えられると、国際的な軍用船市場で競争の機会が大幅に増える。このほか空母は利潤が大きい。

上述の証言のキーポイントは次の通り。

- ①江南及び大連造船所の2か所で空母を建造すること。
- ②どちらが第一艘をどちらが第二艘を造るのか、どこで合体、艤装作業をするのかが争いになっている。

両造船所は、空母建造のため大量投資し、軍民両用の大型ドック、相当大きな室内船台を建造している。

KDR の分析結果は次の通り。

空母建造の決定権者は、最終的に 2 年以内に意志決定しなければならない。即ち呉勝利海軍司令員の任期内に決めねばならない。彼はすでに定年年齢を超えており、70 歳で退職しなければならない。**KDR** が判断した“70 歳決定論”は正しいはずだ。

種々の状況から見て、中国空母の建造決定は秒読み段階に入った。7 月 27 日の一本の官側ニュースが本誌の注目を引いた。“陸昊が海軍副司令丁一平に会見した”とのニュースである。陸昊は、団派（共産主義青年団）の第六代の重要人物であり、今年黒竜江省省長に下った。丁一平は、次期海軍司令員の有力候補であり、空母計画の具体的執行者になる可能性が高い。報道の最後の一句“ハルビン市長及び海軍副参謀長 ZHANGJIANCHANG が会見に立会った”に特に注目した。

ハルビンボイラー工場は空母ボイラーの重要なメーカーである。**KDR** は、同工場とウクライナのカウンターパートとの協力の歴史を 15 年間にわたって追跡している。ウクライナは、何度も代表団をハルビンボイラー工場に派遣し空母ボイラーに関する技術交流を行った。

以上